

## ●これまでの経過と今後のスケジュール

江別の顔づくり事業は、平成7年度の江別市新総合計画への位置付け以来、関係機関との協議や市民の皆様への説明会などでいただいた貴重なご意見を基に検討を重ね、平成18年に連続立体交差事業、土地区画整理事業、街路事業について都市計画を決定し、順次、事業に着手しています。

今後も本事業の早期完成に向けて進めて参りますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

【野幌駅周辺の混雑状況(整備前)】



野幌駅南口前



野幌駅南口前

【踏切の混雑状況(整備前)】



6丁目踏切



8丁目踏切

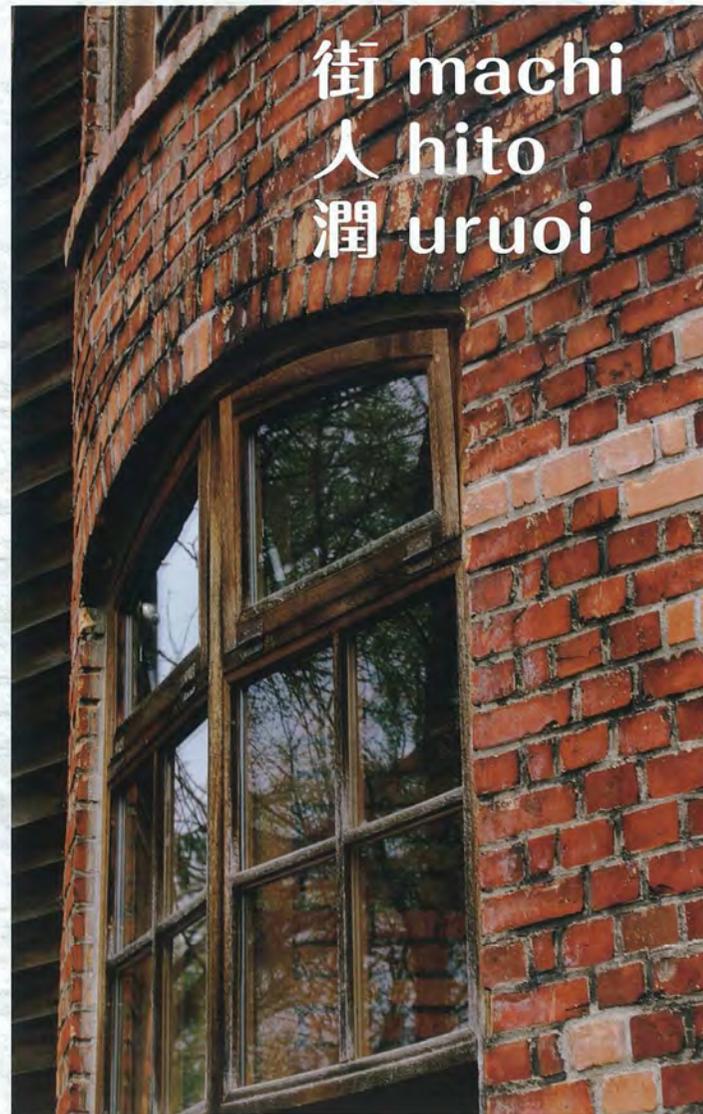


## 江別の顔づくり事業



# にぎわいの都心づくり

街 machi  
人 hito  
潤 uruoi



お問い合わせ

江別市 建設部 顔づくり推進室

〒067-8674 北海道江別市高砂町6番地 Tel.011-381-1082 Fax.011-381-1074

HP : <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/kensetsu/public/index.html>

E-mail : [toshin@city.ebetsu.lg.jp](mailto:toshin@city.ebetsu.lg.jp)

平成23年10月作成

江別市

## 連続立体交差事業

連続立体交差事業(鉄道高架事業)は、鉄道を高架化(橋梁化)して交通渋滞や事故の原因となっている踏切を除却することにより、鉄道を挟んだ両側の市街地を結ぶ複数の道路を一挙に整備していく都市計画事業です。



平成23年  
10月23日  
野幌駅新駅舎、  
鉄道高架部  
開業

## 土地区画整理事業

土地区画整理事業は道路などの公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え、整形化されたまとまりのある街並みをつくり出す事業です。

本地区では野幌駅付近で行われる連続立体交差事業と併せて南北市街地の一体化を図り、駅前広場などの都市機能を充実し、利便性の高い賑わいのあるまちづくりを行います。



## 街路事業

街路事業は、良好な道路環境の形成や自転車・歩行者の安全な通行、冬期における歩道の確保などを考えた構造で整備し、道路の新設、拡張、切替え等を行なう事業です。

「駅環状道路」を形成する道路を整備するとともに、駅への連絡をスムーズにするための道路などを整備し、交通バリアフリー化も推進していきます。



江別市では、野幌駅を中心とした都市機能の充実や賑わいのある都心づくりを目指す「江別の顔づくり」を推進しています。

# 都心づくり にぎわいの

## 江別の顔づくり事業



街 machi  
人 hito  
潤 uruoi



～顔となるまちを次世代へ～  
一歩ずつ、一歩ずつ  
商店街、地域、行政が  
一体となって  
進めていきます



## 商業等活性化事業

野幌駅周辺を活性化させるためには、商店街をはじめ中心市街地としての魅力を増し、市の顔としての機能の充実を図る方策が必要です。

そこで、地域交流活動と商店街の連携、魅力ある商業活動の展開をはじめとして、具体的な方策を盛り込んで策定された「野幌駅周辺地区活性化計画」(※1)の実現など、商店街や地域、行政などが一体となって活性化に取り組んでいきます。

※1:住民、事業者、行政などの共通の指針として、地元商工3団体が事務局となって設立した「野幌駅周辺地区活性化協議会」により平成20年2月に策定(平成21年9月見直し)



## 環境に配慮したみどりあふれる街“えべつ”

近年、低炭素型社会と省エネルギー社会の実現はこれまで以上に重要なものとなっています。このため江別市は、「江別市環境管理計画」に基づき、野幌駅周辺を環境モデル地区として、グリーンモール整備や都市緑地(鉄道林)の保全のほか、街路灯のLED化、地中熱ヒートポンプ、カーシェアリング(※2)等を実施し、環境に配慮したまちづくりをおこなっています。

※2カーシェアリング:複数の人数で車を共同利用(シェア)することです。詳細は中面をご覧ください。





昭和初期の野幌8丁目通(江別市郷土資料館所蔵) 昭和初期の野幌駅(江別市郷土資料館所蔵)

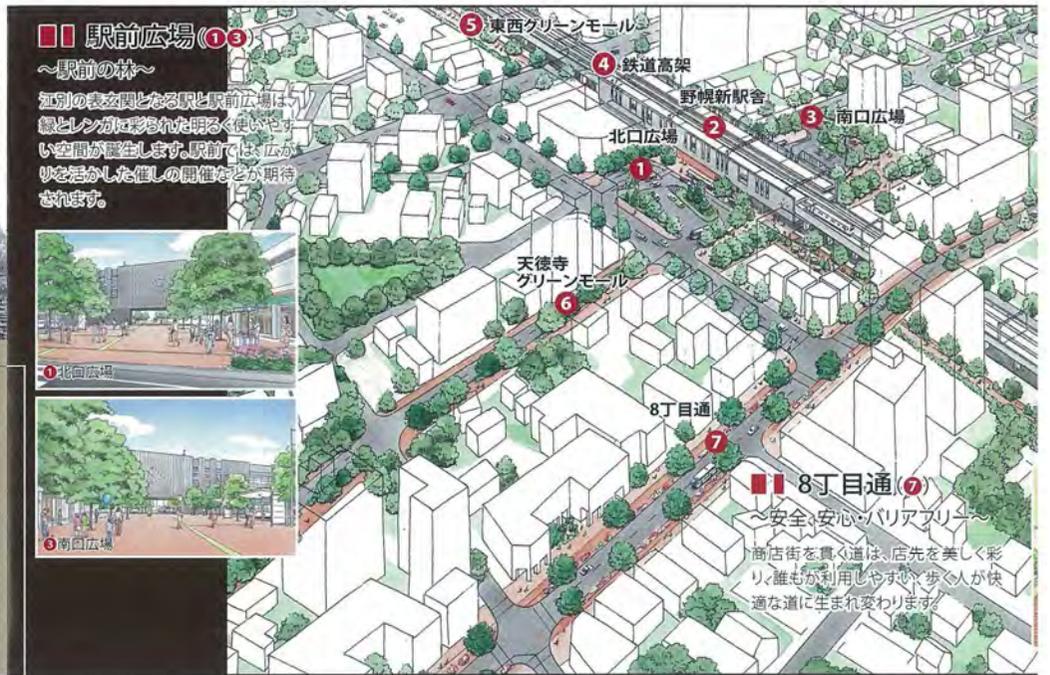
## 歴史と文化薫る江別の都心部を

### 【野幌駅周辺の歴史】

野幌駅は、明治22年(1898)に、屯田兵村第2中隊本部(野幌)と札幌の屯田本部との連絡上の必要から、官営幌内鉄道の駅として開業し、駅北地区は屯田兵による開拓、駅南地区は北越殖民社の集団入植により街並みが形成されました。また、明治30年代以降の煉瓦工場の操業は、街を大きく発展させ、戦後、江別の中心を担う野幌の基礎を築きました。



野幌煉瓦工場の面影(江別市郷土資料館所蔵)



### 駅前広場(1)

～駅前の林～

江別の表玄関となる駅と駅前広場は、緑とレンガが彩られた明るく使い心地よい空間が誕生します。駅前では、賑わいを活かした催しの開催などが期待されます。



### 8丁目通(7)

～安全・安心・バリアフリー～

商店街を貫く道は、店先を美しく彩り、誰もが利用しやすい、歩く人が快適な道に生まれ変わります。

## 江別の

## 顔づくり 事業 にぎわいの都心づくり

### 都心整備のテーマ

市民みんなが行けるにぎわいと魅力ある市民交流拠点づくり  
～歩いて暮らせるまちづくり～

- ①都心を中心とした「南北市街地の一体化によるコンパクトな市街地の形成」
- ②商業・業務・交通・文化・交流・居住などの「都市機能の充実による中心市街地活性化」



駅前広場を活用した催しのイメージ



## 笑顔と活気溢れる、環境に配慮したまちづくりで

### 鉄道高架(4)

連続立体交差(鉄道高架)によって駅をはさんだ南北のまちがつながります。南北がつながることで、都心の回遊性が高まり、人の流れが活発化します。また、人に優しいまちづくりを目指し、ゆとりある歩道を設けます。



# 楽しく心地よい～市民の“リビング”へ

札幌駅まで  
快速15分の  
利便性ますます  
向上



## 野幌新駅舎(2)

新駅舎の基本デザインについては、平成19年7月に「野幌駅舎景観検討委員会」を設置し、駅前広場も含めて市民と学識経験者により検討がなされ、平成20年1月募集の市民意見も踏まえて、機能、景観、空間利用などから心かりのデザイン案を決定しました。これを受けて、JR北海道はデンマーク鉄道と共同作業で駅舎の設計を行いました。



## グリーンモール(66)

東西グリーンモールと南北に延びる天徳寺グリーンモールが整備され、東西、南北に延びる緑豊かな通りが駅前へ導くようになります。人と自転車が快適に、安全に通行できる緑豊かなまちになります。



環境に優しい  
まちづくり



## カーシェアリングの活用で緑豊かなまちを

江別市では、みどり豊かなふるさとを次世代へ引き継ぐため、ハイブリッドカーや電気自動車の公用車を土日祝日などにカーシェアリングに提供しています。市内には、野幌森林公園や石狩川といった自然体験スポットや史跡、公園・緑地が多数あります。レジャーやレクリエーションに、環境配慮型自動車を利用して、ライフスタイルや環境について考える一つのきっかけにしてみませんか？



伝えていきたい  
見どころ・名所

野幌駅周辺には、酪農、小麦、煉瓦のふるさと・江別の様々な歴史・文化施設があります。煉瓦を活かした建物や歴史的建造物を眺めながらの散歩もオススメです。



## 次世代へふるさとを引き継ぎます



記憶を育む  
イベント・祭り



- 2月 雪あかり(8丁目通)
- 7月 骨董市、軒先ジャック、江別夏まつり、北海鳴子まつり、ビール祭り
- 8月 遊楽街ビール祭り、盆おどり、聖徳太子まつり
- 9月 錦山天満宮例大祭
- 10月 ハッピーハロウィン
- 12月 ウィンドウディスプレイ

北海鳴子まつり



# 野幌駅周辺 土地区画整理事業

顔となるまちを次世代へ  
「にぎわいの都心づくり」



今後とも皆様のご理解とご協力を得て  
まちづくりを進めてまいります。

●問い合わせ先  
江別市 建設部 都心整備室 都心開発課  
〒067-8674 北海道江別市高砂町6番地  
TEL.011-381-1086 FAX.011-381-1074  
ホームページ：http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/kensetsu/public/index.html  
電子メール：toshinkaihatsu@city.ebetsu.lg.jp  
平成20年3月発行

江別市

# 事業の位置付けと目的

## ●事業の位置付け

野幌駅周辺土地区画整理事業は、「第5次江別市総合計画」(H16～H25年度)において位置付けられている「江別の顔づくり事業」の基幹事業の一つです。

「江別の顔づくり事業」は、野幌駅を中心とした南北市街地を一体化し、「コンパクトな市街地の形成」や商業・業務、交通、文化・交流、居住などの「都市機能の充実による中心市街地活性化」を目的とした事業です。



## ●事業の目的

野幌地区は、国道12号沿道に広域商業施設など商業・業務施設の立地が進む一方で、駅周辺では未だ低未利用地が点在しており、中心市街地としてふさわしい土地利用が図られておらず、駅を中心とする拠点性が欠如している状況にあります。

また、JR函館本線により地区が南北に分断され、8丁目踏切では朝夕に慢性的な交通渋滞が生じていること等から、均衡のとれた南北の市街地の発展、地区人口に見合った公共施設の整備が求められています。

このため、道路・駅前広場等の公共施設の整備や宅地の再配置を行い、南北市街地の一体化と快適な中心市街地の形成を図るための基盤整備を目的として、野幌駅を中心とした約10.6ヘクタールにおいて土地区画整理事業を実施します。



# 野幌駅周辺の歴史

野幌駅は、明治22年(1889年)に、屯田兵村第2中隊本部(野幌)と札幌の屯田本部との連絡上の必要性から、官営幌内鉄道の駅として開業しました。

この野幌駅の開業を契機として、駅北地区は屯田兵による開拓、駅南地区は北越殖民社の集団入植により街並みが形成され、特に明治30年代以降の相次ぐ煉瓦工場の操業は、雇用を創出し、地域人口を増やし、商業活動を活性化するなど、街は大きく発展しました。

戦後は、市施行による土地区画整理事業を始めとし、駅周辺でのマンション開発や開発行為が活発に行われ、人口が著しく増加したことを受け昭和61年には野幌駅南口が開設され、また国道12号沿道には広域商業施設が立地する等、江別の中心を担う地域として発展しました。



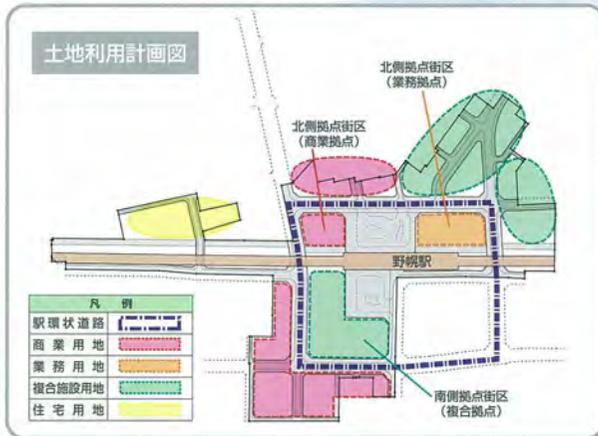
# 事業の概要

## ●設計の方針

### ＜土地利用計画＞

北側拠点街区は商業・業務等の高度利用・複合利用を図る街区として、南側拠点街区は市民の生活・文化の複合施設用地及び中高層住宅用地としての土地利用を計画しています。

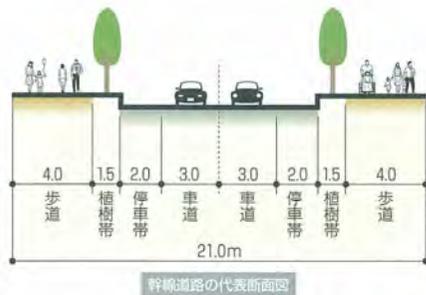
拠点街区以外の街区については、駅北地区の東側を商業・業務・住宅の複合施設用地として、西側を主に住宅用地としての土地利用を計画し、駅南地区については主に商業用地としての土地利用を計画しています。



### ＜公共施設計画＞

#### 都市計画道路

地区内外の連絡を図る幹線道路及び駅を中心とする「駅環状道路」により駅周辺交通の円滑化を図る計画です。

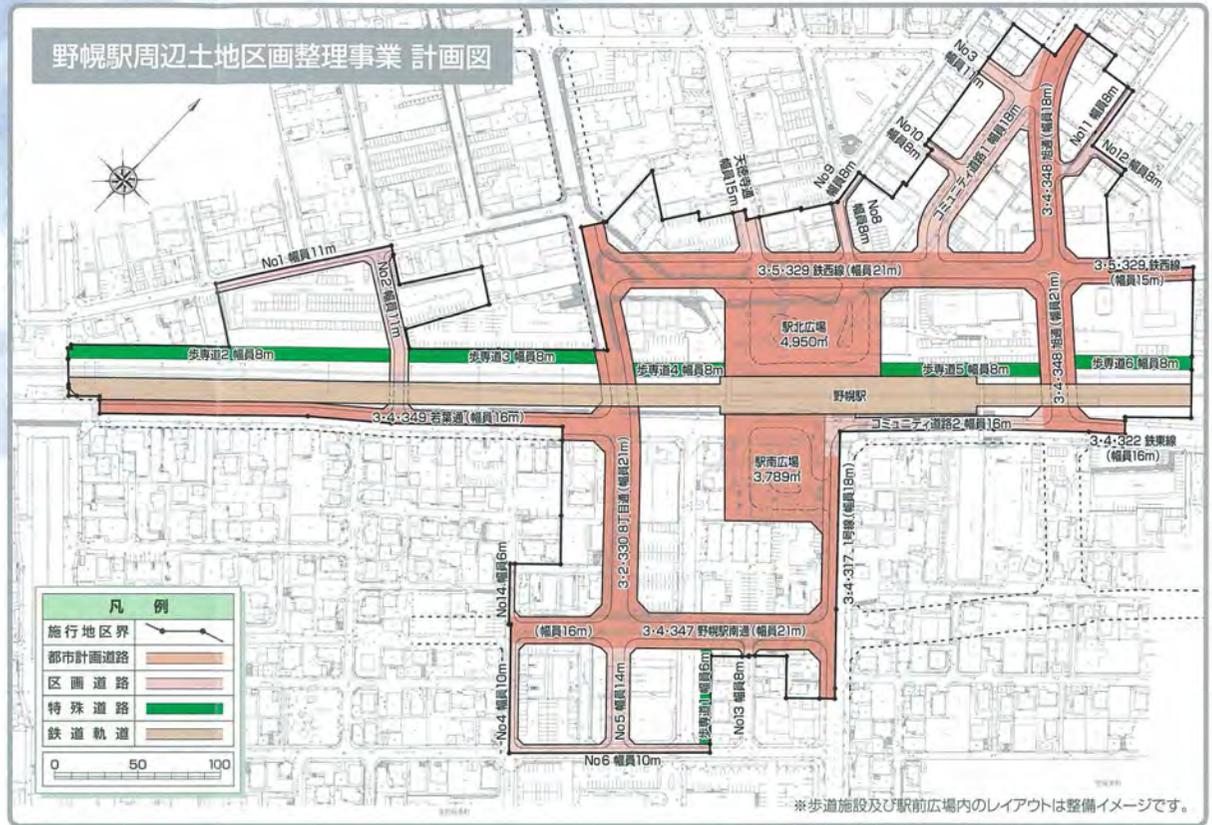


#### 駅前広場

鉄道とバス、タクシー等との交通結節点機能の強化を図るため、駅の乗降客数を勘案し、バスやタクシーの乗降場を適正に確保できる規模及び配置として計画しています。

#### 区画道路特殊道路

区画道路は、都市計画道路の配置や適切な住区形成を考慮して計画しています。歩行者専用道路については、駅前広場や駅周辺公益施設へのアクセスの向上を図るために配置し、植栽により緑豊かで快適な歩行者空間を創出します。



※歩道施設及び駅前広場内のレイアウトは整備イメージです。

事業名	札幌圏都市計画事業 野幌駅周辺土地区画整理事業
施行者	江別市
施行地区面積	約10.6ヘクタール
事業施行期間	平成18年度～平成36年度(清算期間5か年を含む)
公共施設整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都市計画道路…1,450m 7路線(幅員15～21m)</li> <li>●駅前広場…駅北広場 4,950㎡(現行:約2,600㎡)</li> <li>●駅南広場 3,789㎡(新設)</li> <li>●区画道路…915m 16路線(幅員6～18m)</li> <li>●特殊道路(歩行者専用道路)…580m 6路線(幅員6.8m)</li> </ul>
総事業費	80億円
減歩率	19.9%(12.4%) ※( )内は減価補償金相当額による公共用地取得後
事業経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画の決定 平成18年6月20日</li> <li>・事業計画の決定 平成18年11月24日</li> <li>・事業計画の変更 平成20年2月28日(第1回変更)</li> </ul>

## ●今後のスケジュール

今後、順次仮換地を指定し、連続立体交差事業と併せて公共施設の整備を行い、事業の効果的かつ効率的な進捗が図られるよう努めてまいります。

### 平成18年度：都市計画の決定・事業計画の決定

- ……現況調査・権利関係の調査
- ……公共施設充当地の取得開始
- ……土地区画整理審議会の設置
- ……換地の設計
- ……仮換地指定の開始
- ……建物移転・工事の開始

### 平成30年度：工事の完了

- ……換地計画の決定

### 平成31年度：換地処分

- ……清算金の徴収・交付

### 平成36年度：清算事務の終了

## ■景観検討

野幌駅の景観検討については、平成19年度に駅舎の基本設計にあたり「野幌駅舎景観検討委員会」を設置しました。

委員では景観検討を進めると共に、平成20年1月には景観シンポジウムや新しい野幌駅へのパブリックコメント（意見提出455件）も実施し、平成20年5月に「野幌駅舎景観に関する提言書」を、J R函館本線（野幌駅付近）連続立体交差事業協議会に提出しました。

協議会では、委員会からの提言書を受け、駅舎の基本デザイン3案（風、森、ひかり）から「ひかり」のデザインの採用を決定し平成20年6月に公表しました。

なお、J R北海道では、駅舎デザインの検討に当たり姉妹鉄道であるデンマーク鉄道会社の建築デザイナーと共に検討を進めました。

## ■プラン

北側の駅前広場のほぼ中央部に南北からの出入口を配置し、柵外コンコースを旅客動線軸として、北側に待合スペース、南側に旅客便所や駅事務室等を配置しています。

柵外コンコースからは、自動改札機を通り柵内コンコースへ入り、階段、エスカレーター、エレベーターによりホーム階へと向かう動線としています。

## ■ホーム階

2面2線のホーム階は、長さ150mの防風壁が窯業系防火サイディングで仕上げられ、天井のリブ付き金属板に埋め込まれたダウンライトのひかりがホーム面を温かく照らしています。

ホーム階のサイズの異なる開口部からは、駅前広場やグリーンモール、そして、まち並みを望むことができ、まちとの連携を感じることができます。

## ■駅前広場計画

土地区画整理事業により整備される駅前広場（北口：4,950㎡、南口：3,789㎡）は、バス、タクシー、自家用車の乗り入れが可能となり、交通結節点としての機能が向上します。また、広場空間では、各種のイベントや市民活動などの活用スペースとしての検討も進められています。

グリーンモールの交差点となる広場空間のデザインは、駅舎デザインとの調和を基本とし、シンボルツリー（北口：針葉樹、南口：広葉樹）の配置や、四季を彩る木々の植栽などにより、潤いを感じられる空間となります。

広場西側の高架下に配置された連絡通路は、南北の広場やまちを結ぶゲートとなり、駅舎防風壁に設置された大時計や広場の樹木がゲート性を感じさせてくれます。

## ■コンセプト

### 野幌駅

シンプル  
洗練  
先進性

・素材の組み合わせによる、レンガの効果的・象徴的なデザイン  
・駅前広場やグリーンモールとの一体的なデザイン  
・四季と昼夜の顔を、ひかりとみどりて演出するデザイン

- ・まちの顔として永く存在する駅舎は、一過性のデザインではなく、よりシンプルなデザインにより「変わらぬ価値」を表現しています。
- ・周囲の建築物が統一性を図りやすくするために、1階外壁と防風壁は明確なラインにより区分しています。
- ・長大な防風壁を開口部により分節し、建築的なスケール感としています。
- ・大きな開口部が駅とまちとの連携を強調し、小さな開口部からはホーム階の人の動きが感じられます。
- ・1階外壁は、ガラスと野幌レンガの組み合わせにより、開放感と江別らしさを表現しています。
- ・駅からこぼれる印象的なひかりが、幻想的な夜景を創出します。

## ■外装

1階外壁は野幌レンガとガラスとし、アクセントレンガにより特徴的な外壁としています。

防風壁は亜鉛合金パネルによりシンプルな仕上げとし、パネルの縦ラインと3種類のサイズの開口部が特徴的なひかりを演出します。

## ■内装

明るい色彩のコンコース空間が、ホーム階へと連続しています。そして、秋に赤く紅葉し赤い実が特徴的なナナカマドをイメージするレッドカラーがアクセントとなり、改札口正面には雪を感じさせる白磁のタイルアート「映ろい」が、一瞬の時々をひかりや照明により豊かな表情を表現します。

また、ペンダント照明が配置された待合スペースは、温もりとやすらぎが感じられる憩いの空間となります。



「映ろい」

## ■グリーンモール計画

安全で快適な歩行空間のネットワーク形成を目的として、南北駅前広場から東西南北へとみどり豊かなグリーンモールが整備されます。

北口駅前広場から北側に天徳寺グリーンモール（幅15m、延長約300m）が整備され、野幌グリーンモールと接続し、東西方向に東西グリーンモール（幅8m、延長約500m）が整備され鉄道林と接続します。

南口駅前広場から南側に駅南グリーンモール（幅3.5m、延長約600m）が整備され、東野幌総合公園との接続が計画されています。

## ■高架下利用計画

鉄道の高架化により、新たに約1.3haの高架下利用が可能となります。

駅部の東西には、通勤・通学などで自転車利用の利便性を図るため、高架下を活用した駐輪場が整備されます。駅舎出入口の西側には、駅利用者や市民サービスなど、駅の賑わい創出につながる施設等の導入に向け、駅前広場整備との調整を図りながら検討を進めています。

また、駅部以外の高架下についても、周辺の土地利用状況などを考慮し、早期に利活用を図るため検討を進めています。

## ■データシート

用途	駅舎
設計監理	北海道旅客鉄道㈱
設計	日本交通技術㈱、㈱アトリエアク
デザイン	協力：デンマーク鉄道会社（パブリック建築社） タイルアート：(株)アクリア（田村柚香理）
施工	礼建工業㈱
工期	平成22年9月～平成24年6月（予定）
用途地域	商業地域
延床面積	1,119㎡
高さ	最高13.0m
構造	駅舎：土木高架工作物造、一部鉄骨造
外装	1階部：野幌レンガ（長手積み） 防風壁：耐候性亜鉛めっき鋼板
内装	床：セラミックタイル貼り 壁：化粧ケイ酸カルシウム板張り 一部モザイクタイル、セラミックタイル
天井	岩綿吸音板
設備	エスカレーター、エレベーター
構造	鉄骨造
屋根	被覆鋼板防水
内壁	窯業系防火サイディング
天井	角波スパンドレル

制作：北海道・江別市・JR北海道/2011.10



2011年10月23日：野幌鉄道高架開業  
（駅舎の完成は、2012年6月を予定）

## はじめに

江別市は石狩平野の中央に位置し、市内には日本三大河川の石狩川が流れ、平地原生林の野幌森林公園など自然環境に恵まれた。道内有数の研究学園都市として成長を続けています。

また、日本を代表する窯業産地として全国一位の生産を誇るレンガは、北海道遺産にも認定されており、レンガのふる里としての歴史が産業や文化にも受け継がれています。

現在、野幌駅周辺では「江別の顔づくり事業」として、鉄道高架事業や土地区画整理事業などによりオンリーワンのまちづくりが進められています。

駅舎及び駅前広場の整備にあたっては、野幌の特徴を活かした賑わいと魅力のある空間の創出が求められ、野幌らしい景観を子供たちへ引き継ぎたいと考え、デザインの検討に取り組んできました。

新しく生まれ変わる駅舎は、まちとの連携や共生が感じられ、周辺のまち並みを誘導し、時の流れに流されない、「変わらない価値」を求めたデザインとして、多くの市民に親しまれ利用されることを願っています。

原始林と石狩川にいだかれたまち、江別の顔として、平成23年10月23日に「ひかりの駅」が誕生しました。

## ■事業概要

### ①連続立体交差事業

- ・名称 J R 函館本線（野幌駅付近）  
連続立体交差事業
- ・事業主体 北海道
- ・交差道路 都市計画道路：4路線、市道：4路線
- ・工事区間 約2.4km（高架橋区間：約1.5km）
- ・施行期間 平成18年度～平成24年度
- ・事業費 約153億円

### ②土地区画整理事業

- ・名称 野幌駅周辺土地区画整理事業
- ・施行者 江別市
- ・施行面積 約10.6ha
- ・施行期間 平成18年度～平成36年度  
（清算期間5年含む）
- ・事業内容 都市計画道路：7路線、特殊道路：6路線  
北口駅前広場拡張（約2,600㎡→4,950㎡）  
南口駅前広場新設（3,789㎡）
- ・事業費 約80億円

## ■事業経緯等

- ・明治22年 野幌開業（1889年、官営幌内鉄道）
- ・平成12年度 都心地区基本計画調査
- ・平成13～14年度 連続立体交差事業調査
- ・平成16年度 連続立体交差事業（着工準備採択）
- ・平成17年度 連続立体交差事業設計調査
- ・平成18年度 都市高速鉄道都市計画決定  
土地区画整理事業都市計画決定  
連続立体交差事業認可  
土地区画整理事業計画決定・着工  
鉄道高架工事協定書締結・着工  
第1回 J R 函館本線（野幌駅付近）  
連続立体交差事業協議会
- ・平成19年度 野幌駅舎景観検討委員会  
新しい野幌駅へのパブリックコメント  
野幌駅舎景観シンポジウム  
「野幌駅舎景観に関する提言書」  
（景観検討委員会一協議会）  
野幌駅舎基本デザイン案公表  
野幌駅付近鉄道高架事業着工安全祈願祭  
第2回 J R 函館本線（野幌駅付近）  
連続立体交差事業協議会
- ・平成22年度 第3回 J R 函館本線（野幌駅付近）  
連続立体交差事業協議会



■野幌駅周辺整備計画図



■北面ファサード (待合スペース、駅舎出入口)



■北面ファサード



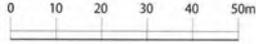
■南面ファサード夜景



■北口駅前広場



■南口駅前広場



北口駅前広場は平成26年度完成予定  
 駅舎・駅前広場等配置図 南口駅前広場は平成30年度完成予定



■橋外コンコース



■待合スペース



■橋内コンコース



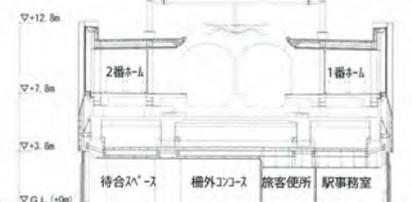
■ホーム階



■北立面図



■南立面図



■断面図